



# はまだだより

Tel 0725-21-2008

Fax 31-4033

2013(平成25年)12. 2.

<http://izumiotsu-ed.jp/e-hama/index.html>

発行・・・浜小学校長 西田 秀雄



東日本大震災の被災地の  
子どもたちに送った  
メッセージ

絵本作家のやなせたかし(本名 柳瀬 嵩)さんが去る10月13日、94歳でお亡くなりになりました。やなせさんは、21歳から26歳まで出征し中国で終戦を迎えました。弟は特攻隊を志願して22歳で戦死したと言われています。終戦後、新聞社や百貨店で働きました。34歳でまんが家として独立しましたが、生活は苦しかったようで舞台やドラマのお話作りもしていたそうです。

40歳を過ぎて将来への不安を持っていた時に、ふと電球に手をかざしてみると、血の色が真っ赤に透けて見えたことで生きていることを実感し励まされ、有名な曲「手のひらを太陽に」(1961年)の詞ができたと言われています。そして、なんと50歳半ばになって、あの有名な国民的絵本「アンパンマン」を出しましたが、大人たちには当初不評でした。けれども、各地の幼稚園では絵本がボロボロになるまで読まれました。水にぬれただけでヘナヘナとなるアンパンマンにしても、常勝不死身のヒーローではない「正義とは、実は弱いものだ」と大人にも分からないアンパンマン哲学が幼児たちには通じていたのかもしれない。

## アンパンマンに込められた思いとは

アンパンマンには、全力をつくして人を喜ばせる仕事をしたいというやなせさんの思いが込められています。アンパンマンのテーマである、「愛と勇気と冒険」は、助け合おうという心を育ててくれます。また、アンパンマンは食品の敵であるバイキンマンと戦いますが、徹底的に打ちのめして滅ぼしてしまったりしません。人間の心の中で、善と悪は戦いながらも共存しており、そのバランスが大切なのです。パンを作るのにイースト菌が必要なように、善の心だけでは純粹すぎて精神的な抵抗力も育たず、片寄った生き方になってしまいます。バランス感覚を持って社会で生活していくことで、他人の心が理解できるようになる、とやなせさんはいいます。

東日本大震災後に「アンパンマン」のテーマソングがラジオなどで繰り返し被災地に流され、子どもたちが元気になったと聞いて喜び「死ぬまで現役」の宣言をしました。津波に絶えて残った奇跡の一本松に感動し、激励のために「陸前高田の松の木」という歌を作詞作曲しました。やなせさんは、言葉の通り、生涯に渡ってアンパンマンとして、私たち人間に愛と勇気、やさしさと友情を与える仕事を続けてきてくれました。

私たちも本当の正義について、これからも考え続けていかないとはいけませんね。

参考・・・「もうひとつのアンパンマン物語」やなせたかし著 PHP 研究所